

書き損じや未使用のはがきを送って、発展途上国の支援に役立ててもらおうことができ。印刷に失敗したり余った年賀状を、そんなふうにならうに生かしてみてもいい。代表的な受付先を紹介します。

【大迫麻記子】



タンザニアで救急車として使われている自転車—ジョイセフ提供

♡途上国に自転車

ジョイセフ（家族計画国際協力財団）は届いたはがきを換金し、再生自転車を贈っている。

途上国で自転車は高価で、タンザニアでは1台が年収に匹敵するほど。病人を運ぶ貴重な手段で

「命の足」などと呼ばれ、大切にされているとされている。東京都や広島市などから提供された放置自転車を組み立て直し、この18年間で86カ国に約5万台を贈った。輸送は日本郵船が協力している。

送り先はジョイセフ

〒16

2-0843 東京都新宿区市谷

日打1-0 栄連

書き損じはがきで国際協力

「命の足」や津波被災地に

学校の学費は3年で約3万円かかるため、進学をあきらめる子が少なくなっている。奨学生は小学校長が推薦し、確実に学費として使われるよう、教師が通帳を管理する。

受け付けは関東1都6県と新潟県のジャスコなど計76店のサービスカウンターで、2月28日まで。昨年は約3万枚が寄せられ、40人に支給した。

また、インド洋大津波など世界の被災地に医師や看護師を派遣している国際医療援助団体・

AMD A (〒7

01-1202

岡山市櫛津3

10の1、 ☎0